九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

スペインの十二月騒乱

浅野，正一

https://doi.org/10.15017/14532

出版情報：法政研究. 1 (1), pp.1-33, 1931-03-30. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

スペイン十二月騒亂

淺野　正一

ヨーロッパの邊隅に、忘れられたような存在を續けてゐたスペインは、一九二三年九月、Primo de Rivera 將軍の獨裁制の樹立以來、打續く騒亂のために、新に人々の注目を惹き始めた。

此處に取扱はうとするのは、一九三〇年十二月スペインに勃發した騒亂である。その騒亂は全國に波及して、一時は革命の遂行を思はしめる勢であつたが、遂に旬日の後、ひとまづ鎭定されるに至つた。

此の最近の騒亂を發生せしめた社會的條件と騒亂の經過とを說き、併せてスペイン政情の將來に對する展望を描かうとするのが、此の論稿の意圖である。たゞ國がスペインであるのと、事件が新しいために、統計其他の資料の不足に災されることが少くなかつたのは遺憾であつた。

一、はしがき
一、スペインの政治經濟狀態の概觀
一、Berenguer政府の政策の破綻
一、十二月騒亂の經過
一、スペイン政情の將來に對する展望

スペインの政治經濟に於ける著しい特徴は、今猶封建的遺臭が可成りに強く、封建的地主の勢力が、ブルジョアジーのそれに優り、封建主義的矛盾が、資本主義的矛盾に比して强度であることである。

このことは、スペインに起る騒亂の社會的基礎を規定し、その將來の發展に對して一定の方向を規定する。その限りに於いて、また此の特徴の究明は、スペインの騒亂を論ずるものにとつて、決定的な意義を有せねばならぬ。

スペインに於ける主たる産業は、農業である。

吾々は、遺憾ながら最近のスペインに於ける所得者の職業別統計を有してゐないが、表一についてみると、一

九二〇年に於いて、農業（林業及び漁業を含めて——但し此の點は次に論ずる）に依る所得者數は、其の他

表一　スペインに於ける所得者の職業別表

a 基　數 ※

調査年度	農•林•漁業	工•坑　業	商•交通業（旅館・料理店業）	陸　海　軍	其他の公務及自由職業	家事及個人的使用人	其他の所得者
1920	4 537　817	1 899　127	432　678	169　445	343　338	301　261	※※ 278　750
1910	4 220　518	1 098　546	405　978	135　204	318　796	320　317	※※ 1 008　221

b 比例數 ※

57.0	56.2	23.9	14.6	5.4	5.4	2.1	1.8	4.3	4.3	3.8	4.3	3.5	13.4

(Statistisches Jahrbuch für das Deutsche Reich, 1930 , S.25)

※　猶未だ所得生活を始めざるもの，既に退きたるもの，身體的欠陥のため勞働不能のものを除外したる上に，本職を有せざる家婦，利子•年金等の衣食者，公共營造物所屬員を含まず。

※※　1920年は，筆耕，速記者，通譯の16 473を一括して含み，1910年は，出納事務員，簿記事務員，會社員の65 271を一括して含む。

※※※　前記の數字は1920年，後記は1910

の一切の産業、商・工・坑・交通業に依る所得者數に對して、實にその二倍弱に當つてゐる。此の數字は、スペインの主要産業が農業たることを示唆する。尤もこの計算に於いて、農業に依る所得者數の中に、林業及び漁業に依るものも含めてはゐるが、その中漁業者の數は別本[1]に、同年に於いて一四八、七二〇人とあつて、大して多くなく、更にスペインの林業もまた貧弱なものである。スペインの森林帶は、纔にピレネー山脈及びカンタブリア山脈に於いて見出されるが、一九二六年頃に於いて、喬木林は全面積の四・八パーセント、矮木林は三・二パーセント、灌木叢は五・二パーセントで、合計全面積の一三・二パーセントに過ぎず、木材需要の四分の三はスウェーデン、アメリカ合衆國等よりの輸入に竢つてゐる有樣である。で農業者に比して、漁業・林業者の數は甚だ少い。少くとも、農業を以つてスペインに於ける主要産業となす右の示唆を覆すほどに大なりと觀ることは出來ない。尤もさきに述べたる如く此等の數字は古い。しかし、此の一九一〇年――一九二〇年は、中に世界大戰を挾んで、その間スペイン工業は後に述べる樣に大なる進歩を遂げた例外的な年度であるから、此の十年間に於ける各産業所得者の增加率を以つて、次の十年（一九二〇年――一九三〇年）の增加率を推定することは不可能である。そこで、吾々は方面を變へて、貿易表についてみると、表二に示す如く、一九二七年に於いて、生活資料は、總輸出の二分の一弱を占め（その輸入は、總輸入の二割弱）、これに對して輸入に於いては完製品が、總輸

人の二分の一弱を占めてゐる。このことは、スペイン産業に於ける農業の優位を示す。尤も原料品に於いて、その輸出の一倍半弱のものが輸入されてゐることは、スペイン工業の可成りの進歩を示唆するが、同時に完製品の輸出入を顧ると、その輸出(總輸出の僅かに二割强)の二倍强のものが輸入されてゐる。このことは、右のスペイン工業の進歩を餘り高く評價してはならないことを示してゐる。

表二　スペインに於ける外國貿易品目表

總輸出入價値の百分比

年度	輸入			輸出		
	生活資料	原料	完製品	生活資料	原料	完製品
1900……	38.6	46.0	15.4	34.5	39.3	26.2
1913……	23.1	39.9	37.0	44.6	31.7	23.7
1918……	25.1	46.8	28.1	38.4	18.5	43.1
1921……	26.8	28.9	44.3	55.0	17.5	26.5
1926……	18.8	36.4	44.8	55.7	18.5	25.8
1927……	17.3	36.3	46.4	54.4	25.2	20.4

(Die Wirtschaft des Auslandes, 1900—1927, S. 219)

此等一聯の數字は、スペインに於ける主要産業が、工業でなく農業であることを物語つてゐる。

ところで此の主要産業たる農業は、如何なる方法に依つて經營されてゐるか？

表三　スペインに於ける土地所有及び農業經營の大きさ

大きさの等級	經營數	面積 ※※	所有者數	面積 ※※
ヘクタール單位	千單位	百万ヘクタール單位	千單位	百万ヘクタール單位
1 未滿	4905	2.1	498	0.3
1—5	1455	3.6	481	1.6
5—10	146	0.9	127	1.0
10—50	115	2.1	127	3.3
50—100	19	1.2	20	1.6
100—500	20	3.9	20	0.8
500—1000	2.6	1.6	3.8	3.0
1000—3000 ※	1.1	1.8	1.6	3.0
3000 超過	0.2	0.7	0.6	3.4
計	6664.0	17.9	1279.0	18.0

(Die Wirtschaft des Auslandes, 1900—1927, S.213)

※　所有に於いては等級の限界は25000ヘクトール

※※　平均の大きさに，經營數乃至所有者數を乘ず

農業地方には大土地所有者が存在してゐて、表三についてみると、一ヘクタール未滿の土地所有者は、實に土地所有者總數の三八●二パーセントに當る四十九萬八千人で、然もその所有地全面積は、總土地面積の一●七パーセントに當る三十萬ヘクタールに過きないのに對し、三千ヘクタール超過の所有者は、土地所有者總數の僅かに七●八パーセントに當る六百人で、然もその所有地全面積は、總土地面積の一八●〇パーセントに當る三百四十萬ヘクタールを占めてゐる。

かゝる大土地を所有するものは、謂ふところの『カツィーケ』であつて、その所有する浩汎な地域を、殆ど獨立國家の如く支配して居り、彼等の下にあつて農業に從事してゐる農民は、一種の農奴狀態に置かれてゐて、資本主義的な經營は、大土地には採用されてゐない。又大土地所有以外にあつても、同じく表三に示す如く過小經營が行はれて、殆ど資本主義化されてゐない。

一ヘクタール未滿の大さの經營は、實に全經營數の七三●六パーセントに當る四百九十萬五千を算するに對し、五乃至十ヘクタールの大さの經營となると、既に十四萬六千に減少し、五十乃至百ヘクタールとなると更に減少

し、全經營數の〇・二八パーセントに過ぎない。ところで何ヘクタール以上が、資本主義的農法に適するかを嚴密に規定することは困難であらうが、小麥刈入及び打穀にコムバインを使用し得るためには、植付面積が少くとも五〇ヘクタール、最良の場合は一三〇ヘクタールと計算されてゐることから觀て、スペインの農業は、大土地所有以外に於いてもまた、封建的農法に依つてゐることは明かである。

但しかゝる封建的農村に於いても、資本主義的矛盾の芽は、既に萠え始めてゐる。そして此の矛盾を萠芽せしめるものは、資本主義の農村に對する壓迫と、夫に伴う農村の解體作用である。

先づ農村に對する資本主義の壓迫に付いては、著書[2]に、スペインに於ける農業勞働者の賃銀が、工業勞働者の賃銀と對比して論ぜられてゐること等よりみて、農業の幾部分かは、資本主義的經營に移されてゐるに相違ないと思はれるが、（勿論その部分が僅小なるべきは表三の解說―七頁―よりみて明かであるが）此等の點について、殆ど公けにされた統計的資料なく、たゞ灌漑設備のために、一九二五年に於いて、二十六萬ペセターズ、一九二六年に於いて、十二萬ペセターズの資本が發行されてゐることを知る。資本主義の壓迫の手は既に農村に伸びてゐる。[3]

次に夫に伴ふ農村の解體作用については、所謂る『カツィーケ』に依る農奴に對する搾取の强度化と、最近の國際農業恐慌とが擧げられる。

商業のために生産させられる農奴が、痛烈な虐使と極度の搾取とを受けるに至ることは、明かな事實であるが、スペインの場合に於いては、その商業が國内市場のみならず、世界の農産物市場を目指してゐるといふ事實（表二參照）に依つて、『農奴』の搾取は倍加される。此の如き強度の搾取は、從來農民層の一部に外國移民と工業地帶への流入者と農村プロレタリアートとを發生せしめたが、これに加へて、一九三〇年以來、その尖鋭な姿を現し來つた世界農業恐慌は、スペインに於いても、またかゝる農村分化の傾向を強め、農村プロレタリアートの數を增した。（此點後に二〇頁に詳論）。

だが、然し前表三の解說（七頁）に於いて述べたところから十分推論される如く、農村に於ける此の如き資本主義的矛盾は、封建主義的矛盾に比しては劣つてゐる。ところで農業は、前述せし如くスペインに於いては、工業に比しヨリ重要な地位にある。――從つて吾々は結論することが出來る。

スペインの經濟に於いては、封建的地主の勢力強く、封建主義的矛盾が、資本主義的矛盾に比して優つてゐると。

註一　Jahrbuch fue Politik-Wirtschfat, Arbeiterbewegung, 1923—24, S. 842

註二　z. B. Die Wirtschaft des Auslandes, 1900—27, S. 213

註三　灌漑設備のため幾何の資本が發行されるといふことは、勿論、必ずしも夫に相應じた農業の資本主義化が行はれるといふことにはならない。然しそれが、封建的農業に對する資本主義の壓迫であることには相違ない。

此處で吾々は、經濟から政治へと眼を轉ずる。

現在に於いて、此の如き經濟組織の上に臨んでゐるBerenguer政府は、果して如何なる社會的基礎にその立脚地を有してゐるのであるか？

一九三〇年一月下旬、獨裁政府の首班Primo de Rivera將軍の失脚に代つて立つたBerenguer將軍は、前者に比較すると、遙かに自由主義的な立場に立つかに見えた。彼は組閣當時、その新政府の使命が、總選擧と國民の完全なる市民權の恢復との準備にある旨を宣言した。その意味するところは、Rivera將軍に依つて廢棄された一八七六年の憲法の復興であり、就中國民議會の再建である。從つて又右の宣言は、Berenguer政府が謂ふところの中間內閣"Ministerio puente"なることを明かにする。次いで政府は、Riveraに依つて廢止されてゐた國務卿の職を再興し、Riveraの支持者を臺閣より逐ふ等內閣の改造を行ひ、併せて司法權の回復に着手し、最早や法に依ることなくして罰金を課するを禁じ、Riveraに依り不法に罰金を支拂はしめられたる人々にはその返還

請求の權利を認め、又捜査狀なくしては、如何なる家宅捜査をも行ふことを禁じた。更に軍隊に對しては、定期昇進を規定して、Rivera 當時の私寵に依る昇進を廢した。更に二月中旬には、議會復興への着手として、さきに Rivera が國民の議會再興運動に强ひられて設けた形式的な諮問機關たる國民議會を、解散した。乍併、最も肝要な眞の意味の議會の復興は遲々として進捗しない。然も十一月十四日には、たとへ議會が復興されても、Berenguer 政府は辭職するものに非ざる旨を洩して、國民の憤激と不信とを買つた。

更に前に述べた自由主義的な諸施政の中にあつても、言論の自由は著しく制限され、政治的集會は往々彈壓され、示威運動も多く阻止された。Berenguer政府は、その本質に於いては、Rivera 政府と何等異るところなき獨裁制たる色彩を、早くも明かにして來た。

ところで、今問題となつてゐる一八七六年の憲法の規定する國民議會であるが、これは、同權の上下兩院より成つてゐる。上院は、勿論限定された階層の代表であるが、(4) 下院は、約四百名の代議士を擁し、國民五萬人に對して一名の割合に當り、その選擧權は、僅かの制限を以つて、二十五歲以上のすべての男子に與へられてゐる。で特別の選擧干涉が行はれざる限り、かゝる機構の下院は、さきに分析したスペインの經濟組織より觀て、國民の大部分を占める小ブルジョアジー(都市の小中企業家、小賣商人のみならず、小中農民を含めての意味)の利害

を、最も大なる割合に於いて代表する。かゝる下院を有する議會の復興を、Berenguer は、その最初の宣言を裏切つて阻止しつゝある。

從つてBerenguer 政府は、その社會的基礎を、小ブルジョアジーの中に置くものではない。ではその社會的基礎は、ブルジョアジーか、又は地主階級の中に見出されねばならぬ。

ところで此の兩者は、スペインに於いては、既に或る程度の同盟を結んでゐる。このことは、スペインが過去に於いて、言ふに足る民主革命を經驗せず、現在その經濟組織の中に於いて、封建主義的矛盾が、資本主義的矛盾に對比して優つてゐるといふ事實に對して、一見不可思議に見えるかも知れない。然し此處では、左樣な國內的條件の分析と併せて國外的條件の檢討が重大である。

スペインからピレネー山脈を距てたフランス、更に又ビスケー灣の彼方なるイギリス、其處では今や『民主的運動』が、殆どその完成を遂げて、謂ふところの第三期の諸矛盾諸對立の尖鋭化を前にして、直接『社會的運動』に續く道途が開拓されつゝある。更に重要なことは、一九一七年末ロシアに於いて、『社會的運動』が遂行され、一九一九年に建設されたKomintern一九二一年に建設されたProfinternが、其處から世界へ革命運動の手をさし伸べてゐることである。そしてその影響は、後述する如く、スペインにもまた及んでゐる。スペインのブルジョ

アジーは、『民主的運動』の達成以前に於いて、早くも地主階級との同盟の必要があつた。又此の同盟に於いてその勢力に於いて優つてゐる地主階級(前述 參照七頁)が、その覇權を握つてゐることも、また必然的な歸結である。さきに Berenguer がその組閣に當つて、Katalonien 州の大金融資本家 Cambo に、藏相としての入閣を求めた時、彼が、獨裁政府の全財政々策に對する即刻の調査開始を受諾の條件とすると、Berenguer はこれを拒否してその交渉を打切つたのである。

かくて吾々は結論することが出來る。

スペイン現政府は、地主階級の覇權の下に於けるそれとブルジョアジーとのブロックの上に、その社會的基礎を有してゐるものであると。

尤もスペイン現政府の社會的基礎と關聯して、猶分析を要する今一つの重大な要素がある。それはスペインの軍隊である。實際スペイン軍隊は、Rivera の獨裁制の樹立に際しては重要な働きをなしたし、又 Berenguer 自身も軍隊の出身である。

一體スペインの軍隊は徵兵制度なので、前の經濟の分析からみて、その大部分が中小農子弟たることは明かである。さきに彼等が Rivera の獨裁制の樹立を助けたのには、特殊の事情がある。當時マロッコとの間に戰

端が開かれてゐたが、政府の財政々策の破綻は此の戰爭の勝利を困難にし、これはまた財政の破綻を助長するといふ有樣であつたので、苦境に立つたスペイン軍隊の中に、一切の政權を軍事獨裁政府の手に收め戰況の打開を策さうとする輿論が湧き上つたのである。然しその後、Rivera 政府乃至 Berenguer 政府の政策は、それが果して何人の味方であるかを明かにした。スペイン軍隊は、今は Berenguer 政府の軍隊に對する多少の改革にも拘らず、その支持を棄て『民主的運動』の主要勢力となりつゝある。今政府の軍事的な防禦の楯となつてゐるのは、寧ろ、民兵Guardia Civilと稱せられる、軍隊から募集され政府から豊かな給料を受けて、平常は國境の守備に任じてゐる一團である。

註四　スペイン上院の構成要素は、（イ）貴族、大僧正　（ロ）勅任終身議員　（ハ）自治體、教會及び特別投票權者（フイリリストテン）に依つて選ばれたる議員

かゝる政治經濟組織を有するスペインは、最近全く騒擾の巷と化し去つた。騒亂に次ぐ騒亂である。然し既にスペインの政治經濟に對する基本的分析を終つた吾々は、この紛糾を極めてゐる騒亂の中から、その

基本的な諸傾向を把握し得るであらう。それは、

（イ）（都市）小ブルジョアジーを指導的勢力とする『民主的運動』と

（ロ）プロレタリアートを指導的勢力とする『社會的運動』と

である。而して此の兩運動は、或部分に於いては互に關聯し、或部分に於いては互に獨立してゐる。

前者は、立憲共和制の完成を窮極目的とし、議會復興を當面の運動目標としてゐる。かゝる『民主的運動』の指導的勢力が、何故（都市）小ブルジョアジーであつて、ブルジョアジーであり得ず、又（都市）プロレタリアートでもあり得ないかについては、前述するところから、自ら明かであらう。その指導的勢力が、都市プロレタリアートたるには、農村に於ける資本主義的矛盾が、封建主義的矛盾に對比して未だ劣弱であり、又ブルジョアジーがその指導的勢力たることは、前述の國際的條件がこれを許さない。[5] 但し此の『民主的運動』の指導的勢力が小ブルジョアジーであるといふ事實は勿論、ブルジョアジーが地主階級とブロックを結んでゐるといふ事實もまた、此の運動に對するブルジョアジーの一切の參加を拒否するものではない。現に此の運動の指導者の顏ぶれ中には曾つてのブルジョア政黨[6]の右から左までの黨員の名——Zamora（右翼）Lerroux（中央）Domingo（左翼）——が見出される。たゞこのブルジョアジーの參加には、一定の限度がある。その限度とは、此の『民主的運動』が、後に

述べる、新に擡頭し來れる『社會的運動』に對する護岸工事たる限度である。[7] 扨て此の小ブルジョアジーの指導する『民主的運動』に參加するものは、ブルジョアジーのみではない。貧農及びプロレタリアートの一部もまた參加する。それは、かゝる『民主的運動』が、現在のスペインにとつては、猶或程度の進步的意義を有するからである。

次の『社會的運動』について言へば――スペインの工業は、世界大戰中先進資本主義國よりの工業製品の輸入杜絶のために、急速な進步を遂げた。表四についてみると、一九二四年に於いて、石炭及び半完製品の產額は、戰前一九〇九年――一三年に比して、夫々實に三倍乃至三倍半に達してゐる。だが、此の如き工業の發達は、夫自身の中にプロレタリアートの成長をはぐゝんで行つた。そして此の成長し來つたプロレタリアートは、其後に於ける先進資本主義國の生產恢復によるスペイン工業の打擊と、次いで襲ひ來つた世界的不況の中にあつて、襲ひ來るブルジョアジーの壓迫に抗して鬪つてゐる。たゞその抗爭は、甚だ猛烈を極め常に街上に於ける流血の慘事を伴つてゐるが、その多くは自然發生的のもので、罷業勞働者の組織、貧農階層との結合の如きも決して十分には行はれてゐない。それは、スペインに於けるプロレタリアートの成長が未熟なためである。

表四　スペインに於ける若干産業の生産價値

年度	原料	石炭	半完製品	原料	石炭	半完製品
	百万ペセータズ單位			1909/13＝100		
1900/04年 平均	150	28	207	86	53	75
1901/13年 平均	174	53	276	100	100	100
1924……	273	184	925	157	347	335
1925……	298	200	896	170	377	325
1926……	259	217	919	149	410	333

スペインには、もと二つの重要な組合が存在してゐた。一は改良主義的な勞働總聯合U.G.T.で、他はアナルコサンヂカリズムの色彩の強い勞働總同盟C.G.T.である。此の後者の一フラクションがProfinternと提携を結んだ（一九二一年？）。次にスペインの無産政黨としては、スペイン社會主義勞働黨が存在し、その一部が、一九二一年四月分離してスペイン共産黨K.P.Sp.を組織してKomintern の一翼となつた。尤もさきにRiveraは、スペインに於ける一切の組合と政黨とを解散し、保守黨極左黨のMauraをしてUnion Patrioticaを組織せしめたので、爾

來夫以外のものは一切非合法的のものとなつた。然しかゝる壓迫にも拘らず、C.G.T.反對派やK.P.Sp.は、打續く騒亂の中にあつて、その組織と指導力とを强化しつゝある。

註五　勿論農民は、その中農たると小農たるとを問はず、社會運動に於いて指導的役割を演じ得るものではない。

註六　スペインに於けるブルジョア政黨としては、大地主の政黨たる保守黨、それと社會的基礎に於いては殆ど異るところなき、然し二大政黨制の立場から必要な自由黨、カタロニア州のブルジョアジーの政黨でその獨立を目的とするカタロニア派、小ブルジョアジーと一部のプロレタリアートを含む共和黨等が擧げられる。此等は、何れもBerenguer政府に依つて解散を命ぜられた。

註七　かゝる『民主的運動』に附隨して、カタロニア州（工業中心地）の獨立を策するブルジョアジーの一派がある。（註六參照）

扨て此等の昂まり來る社會運動の浪を前にして、Berenguer政府の政策は完全にその無力を明かにした。Berenguer政府の政綱は、憲政の回復、及びスペインを襲ひつゝある經濟恐慌の克服と生産の正常狀態への復歸を計るにある。第一の政綱に付いて、Berenguerが現實に何をなしたかは、既に吾々の詳細に觀察したところ

である。（一一頁參照）。從つて此處では、後の經濟政策のみを問題とする。

Berenguer 政府が成立した一九三〇年一月末には、既に工業及び農業に於ける世界的不況が、その陰慘な全貌を現し始めてゐた。此の世界的不況の中にあつて、Berenguer 政府の採用した經濟政策は、その社會的基礎よりして略々推測される如く、工業及び農業の保護關稅の引上げであり、產業合理化特に獨占の促進である。一九三〇年六月に定められた、外國商品に對する輸入稅率は、若干の商品に對しては、實に四〇パーセントの高さに達してゐる。又政府は、產業合理化政策を强行するため、Rivera 時代に設けられた、協調的な『產業調停委員會』の若干の權能をも廢止した。(8) 然し此の如き政策が、現在の經濟恐慌を克服する何等の力を有せざることは、理論的に明かである。恐慌は日々に尖銳化されて行く。吾々は、今直接數字について、此の尖銳化されて行く恐慌の姿を描かう。

先づスペインの主要產業たる農業から眺めて行くと、此の國の輸出の首位を占めてゐた農產物輸出が、一九三〇年上半期に於いて急落してゐる。最早や農業恐慌は、世界的な現象ではあつたが、スペインの場合に於いては、その農產物の主要輸出先の一たるラテン・アメリカ諸國の政治的不安が、特に考慮されねばならぬ。今重要な農產物たる葡萄酒及びオリーヴ油の數字に付いてみると、一九二八年上半期の輸出額は、百リツトル單位で、二、

八九〇、一一九であり、一九二九年の上半期には二、〇八一、六一四であつたが、一九三〇年の上半期には、一、四二六、九九三になつてゐる。即ち二年間に半減した勘定である。此の如き農産物の輸入の激減は、農産物が主要輸出品なるがため、忽ちペセータ相場に響いて來る。

Berenguer 政府出現當時、ペセータ相場はイギリス・ポンド建て三八・〇五であつたのが、十月十六日には既に五一・二〇になつてゐる。又此の如き農産物輸出の激減は、當然輸出農産物價格の暴落を呼んだ。前記のオリーヴ油は、一九二九年の九月には、一〇〇キログラム二三七ペセータズであつたのが、一九三〇年五月までに一一三ペセータズに下落した。約半値である。かゝる輸出農産物の價額暴落は、地代の負擔、過小經營の生産費の割高等を理由として、小中農民層に最も大なる打擊を與へる。

次に農業から工業方面へ眼を轉ずると、此處にもまた恐慌の威力を觀る。資本發行は、一九三〇年一月には、一億九千八百八十萬ペセータズであつたが、二月には六千四百四十萬ペセータズに急落し、三月には二千八百四十萬ペセータズ、四月には二千六百十萬ペセータズといふ減少ぶりである。これは産業合理化政策と相俟つて、多くの失業群を産んだ。それは、Andalusien 及び Estremadura 州に於いて人口の六二パーセントと稱せられ、全國に於ける失業者總數は百萬前後と言はれてゐる。これは就業勞働者の賃銀に響いて來ること勿論であるが、そ

れに加へて、ペセータ相場の下落に依る物價騰貴に依り實質賃銀を著しく低下せしめられた。（スペインは、當時金輸出を禁止してゐるが、生活資料の一部は輸入に仰がねばならぬので、此の價格が決定的となるから、[9] ペセータ相場の下落が、直接生活資料の價格を騰貴せしめる）。實質賃銀の低下は、一九一四年の指數を一〇〇とすれば、一九二三年は一〇四で、一九二九年は九五・六に下り、一九三〇年九月は五四・七に急落してゐる。

此の如きものが、Berenguer 政府の政策の効果である。これでは、小ブルジョアジーを中心とする『民主的運動』もプロレタリアートを中心とする『社會的運動』もたゞ拍車を加へられるのみである。

かくて騷擾に騷擾を重ねたスペインは、遂に昨冬十二月に至つて全國的な騷亂を捲き起した。

吾々は、此處で十二月騷亂の具體的經過に移る。[10] だが此の騷亂を扱ふにしては、吾々は餘りに迂路を辿りすぎたかに見える。然し此の迂路を經ることに依つてのみ、吾々は、錯雜せる事象の過程から、その意味を謬りなく汲みとり得るであらう。

註八　後に述べる（二〇頁）失業群の增大參照。

註九　表（二）をみると、スペインの主要輸產品が農產物であるのは明かであるが、同時に又多少の農產物が輸入されてゐる。ところで、スペインの農產物中輸出されるのは、葡萄酒・オリーヴ油・オレンヂ・巴旦杏其他の熱帶果實

で、此等は盛に栽培されるが、反之、穀物類の方では、玉蜀黍は大部分輸入に俟つて居り、小麥も往々にして不足を告げ、其他大麥・裸麥・燕麥も大して餘裕ある方ではない。

註十　以下の說述は、拙稿スペイン革命（『改造』三月號）を補筆したるものに依る。

打續く擾亂に物情騒然としてゐたスペインは、十二月騒亂の一月前にも猛烈な騒擾を經驗して、社會的不安の色を濃くしてゐたが、十二月の十二日前後、北スペインの一要塞都市Jacaに於いて、流言が流布された。それは首都Madridに於ける共和制の宣言を傳へた。Jacaの守備兵はこれに應じて直ちに起つた。一聯隊の要塞砲兵、一大隊の步兵、一大隊の獵兵がこれに參加した。十二日午前彼等はJacaの議事堂と停車場とを占領し、同日午後には、八千粁東方のHuesca要塞への進軍を開始した。

一方Berenguer政府は、十二日夜Jacaに軍隊を派遣することに決した。この政府軍は十三日午前Esguesca村に於いて反軍と衝突した。反軍は、最初政府軍を以つて、自分等の運動に合體せんとする共和主義の軍隊と誤認し、共和制萬歲を叫んでこれを迎へ、四人の將校が歡迎に赴いて直ちに捕へられた。(11) かくて午前八時から九時の約一時間、兩者の間に砲火が交へられ、その結果反軍は鎭壓され數百人のものが逮捕された。

反軍の中にはMadrid, Huesca, Saragossa, Bilbao等からの數百名の學生が參加して居り、捕虜の中にも數名の教授が見出された。中にもHuescaの工業學校の一教授はその全學生を伴つてJacaに赴いたのである。

さて捕虜中、反亂の首腦者たる歩兵大尉Galan 砲兵大尉 Hernandez は下級軍法會議に依つて銃殺、砲兵大尉Salnias 中尉Muniz, Mavarro 他一名の曹長は軍法會議で終身徴役の判決が下され、右の銃殺は、十四日午後一時半直ちに執行された。[12] 一方政府は十二日夜より北スペイン地方に於ける共和主義者や勞働運動者の大衆的逮捕を開始し、Huesca のみにてもその逮捕されたものが百五十名に及んだ。

このJacaの事件は、スペインの兵士、勞働者、農民並に共和主義的市民に大なる衝撃を與へ、かねて不穩の空氣に包まれてゐたスペイン各地には、それが口火となつて、軍隊の反亂や勞働者の總罷業が相次いで勃發し、スペイン全土は全く革命の巷と化した。

十五日午前數臺の飛行機が首都Madrid の上空に飛來して、兵營の上に檄文を撒布した。その紙片には次の如く認められてゐた。

『兵士等よ！全スペインに昨夜の中に共和革命が勃發した。正義を求めるすべての人々に依つて憧憬され期待されてゐた革命は來た。國民と兵士とは協力してこの革命を勝利に導いた。すべての地方の假政

府の發する報道は、この成功を實證する。されば今罪なき犧牲と盲動とを避けるため、且又スペイン國家が、正義と友愛と勞働とが要求する如く自らその運命を導き得ることを、世界に誇示するため、卿等は、宜しく吾々の運動に參加し以つて內亂を避くべきである。卿等のかゝる行動は、祖國と共和制とへの奉仕である。又若し卿等の怯懦と無恥とが、卿等をして反對の態度をとらしめるならば、卿等は先づ運動の血祭に上げられるであらう。卿等若し半時間以內に降服を肯じないならば、兵營は爆彈に見舞はれるであらう。スペイン萬歲、共和制萬歲！』

然しこの飛行機は猛烈な砲火を浴びて機首を廻らした。この數臺の飛行機はCutaro Vientos飛行場のスペイン軍用機で、檄文の撒布者はFranco少佐であつた。

同日正午Madridでは、遂に正式に攻圍狀態が宣言され、一切の命令權は、Berenguer首相の兄弟でMadrid總督たるFederico Bereuguerの手に委ねられた。首都は完全に閉鎖された。一切の通信は嚴重な軍事檢閲の下に置かれ、然もその送達は甚しく遲延せしめられる。外國記者は嚴重に監視されてゐる。殊に電話は十五日午前以來、內閣用以外のものは全然不通である。

當時首都には七〇〇〇人の民兵が糾合されてゐる。兵營は僅かにその二百人を收容する用意より有しないの

で、彼等は僧院に宿泊せしめられてゐる。此等の民兵と絶對に政府に服從せる騎兵隊とが首都の保安に任じてゐる。彼等は十五日夜から十六日の拂曉にかけて、全市の重要地點を占領した。市の中央廣場には赤十字の記された野戰病院が設けられ、或地點には機關銃が据付けられ、城塞廣場では、探照燈が爆彈投下に來る革命機を待構へてゐる。民兵、騎銃で武裝せる警官、華やかな色彩の制服を着けた騎兵、此等の往來で首都の光景は全く一變した。

かゝる嚴重な警戒の下に首都は時に小衝突は行はれてゐるが纔にその安寧を保つてゐる。罷業其他の勞働運動の一切は、軍法會議に依る嚴罰を以つて脅かされてゐる。

乍併、一度び眼を地方に投ずると、其處では騷亂の浪が渦捲いてゐる。

北スペインのSaragossaでは、十三日、Jacaの反亂鎭壓に向ふ政府軍を阻止せんとした民衆と、警官との間に衝突が行はれたが、その後直ちに總罷業に移つた。Bibaroでも總罷業が行はれた。San Sebastinでは、勞働者の一團が州政廳を襲つて知事を捕へ、更に郵便本局、停車場を占領し、警官との間に銃火が交へられた。Santanderでは警官屯營が襲はれ、市中は示威行列で充された。國境都Irunでは、勞働者の示威のため一切の營業が停止された。Malagaでは、罷業者のために、Madridへの鐵道線路が破壞された。更にBilbaoからSan Sebastianに至る途

上のGibar兵器廠は、勞働者に襲撃された。Gijonでは青年の一群が教會に闖入して聖像を破壞した。更に十六日には、Alicanteで軍隊の反亂が勃發した。海軍もまた動搖を始め、CadizとValenciaでは水兵が革命運動に參加した。

此の如きスペイン全土に波及せる軍事的反亂や勞働者の總罷業を前にして、スペイン共産黨は、獨自の標語を掲げて、此の運動の指導權を握らうとして焦慮してゐる。乍併、此の如き狀勢は、また一方に於いて、共和主義者社會民主々義者の間に、嫌惡の感情を生み、その動搖離と反とを招いた。

Bereguer政府は、一方に於いて武力的彈壓の手を強めるとゝもに、他方に懷柔の策を廻らした。

今度の反亂の策源地たるCuatro Vientosの飛行場は、Orgaz將軍の率ゐる聯隊に依つて攻擊され占領され、反亂の總指揮者Queipo將軍Franco少佐等は、飛行機でポルトガル國境に逃亡した。彼等は政府軍の飛機に追擊されながらも、無事ポルトガル領に着陸することを得た。(16) 猶政府は各地の反亂を徹底的に鎭壓するために、現にその任に當れる民兵の外に、アフリカより二大隊の植民地軍團と八百人餘の土人軍の輸送を企てた。彼等は十五日Valenciaに上陸し、その一部は首都の警備に、他の一部はAlicante, Helda, Aspero等の騒亂地へ派遣された。慓悍にしてよく戰技に馴れた彼等は、反徒の抵抗を破つて騒亂鎭壓に大に功を奏したけれども、彼等の粗暴な行動

には、保守主義者さへ眉をひそめるほどであつた。

政府は、かゝる武力的彈壓を加へるとゝもに、一方十七日夜、凡ゆる傾向の保守主義者、自由主義者、改良主義者の主だちたるものを集合せしめて、時局打開の協商を開き、次の如き決議を行つた。

『スペイン國王は、急遽憲法制定議會を召集し給ふであらう。何者、それがスペインをこれ以上の困難から救ふ唯一の可能であるから』

猶內閣にも『重大な變更』が行はれるであらう旨が傳へられた。越えて十九日再び同じ目的の會合が催された。招集されたものは、貴族、有力なる商工業者社會民主々義者等である。その時の決議は次の如くであつた。

『不斷の不安は、貴族、市民、商工業の社會的經濟的狀態を危くし、此等すべての市民層の富を破壞する。何故なら、革命の成功は、スペインに、共和制のみならずゾヴィエット制の無政府狀態を齎らすであらうから』

此の決議の第一の影響として、義勇軍が形成され、彼等は民兵と協力して、一切の罷業一切の反政府的行動に對して、凡ゆる手段を以つて鎭壓することになつた。

かゝる政府の策動のため、スペインの革命運動が稍々下火になると、政府は直ちにすべての都市に於ける騷亂

指導者の大衆的逮捕を開始し、更に二十日に武器押收令を發して八日以内にその提出を命じた。かくて一時猛烈を極めたスペインの革命運動も廿日すぎになると略々平穏に歸し、各地方では次第に勞働者の就業をみるに至つた。

註十一　首都に於ける共和制宣言の流言を信じてゐた彼等としては、かゝる誤認はあり得ることであらう。但し一説には、政府軍が反軍に對して、僞つて會見を求め、それに應じて來た四名の將校を捕虜とし、突如として砲擊を開始したものともいはれてゐる。

註十二　Galan は後述する如く、彼の輕舉が今度の革命運動を餘りにも早く挫折せしめた一原因とみられてゐるが、その死刑前後の態度は堂々たるものであつた。

彼は Jaca の反軍が敗れると、その部下數百人の徒なる犧牲を救ふために、僅か二十粁餘を距てるに過ぎないフランス國境への逃亡の機會を棄て、自ら政府軍に身を投じた。更にその下級軍法議會の法廷に於いても、全責任を一身に負はんとし、僚友 Hernandez は全く自分の命令に强制されて行動したもので、何等の責任なき旨を、裁判官に說得しようと力めた。

彼の此の如き態度と、その處斷がスペイン軍隊と鋭く對立せる民兵の手に依つてなされたことは、スペイン軍隊の

同情と憤激とを昂め、これが又革命運動に強い影響を與へたことは、認められねばならぬ。

この判決執行に先立ち、サラゴサ總督は數時間の中四回も首相と電話を交換し、政府はとりかへし難き事情の勃發に先立つて、此の判決執行を再考する餘地なきやを問ふた。然し彼は、その度毎に斷行を求められたのである。だがサラゴサ總督の憂慮は、一片の杞憂ではなかつた。

註十三　スペイン政府の報道に依ると、彼等は Lisbon に着陸し、其處でポルトガル官憲に逮捕され、Madra の衛戍監獄に投ぜられたとあるが、事實はこれに反してゐる。彼等が、ポルトガル領に着陸すると、全國人は極めて親切に待遇し、彼等にポルトガル貨を渡し Lisbon に伴つた。其處で彼等は陸相を訪問し、後自動車で快適な小都市 Madra に連れ行かれ、其處を居住地に指定された。

スペイン十二月騒亂の具體的經過は此の如くである。そしてこのことは、吾々が冒頭に試みたスペイン革命運動の本質及び方向の規定、その指導勢力及び參加勢力の分析の謬りなきことを、示してゐる。

十二月騒亂に於いて、その主流をなしてゐるものは、各地に於ける軍事的反亂で、その性質は、十五日首都の上空に撒布された檄文が、直截に示してゐる樣に、『民主的運動』であつて、以前の小プルジョア政黨共和黨の

指導精神の下に立つてゐる。その中心勢力たる兵士は小中農子弟であり、實際これを指導したのは、下級將校である。更にこの運動には Jaca の捕虜の顏ぶれからも明かなる如く、多くの知識分子が加つてゐる。

猶此の『民主的運動』は、各地の勞働者の總罷業を誘發した。『民主的運動』は、その傍流として『社會的運動』を伴つてゐる。

だが此の十二月騒亂は、その社會的條件の成熟にも拘らず、何等直接的な効果を擧げることなしに、ひとまづ鎭壓された。此の失敗に對しては、特殊の原因が索められねばならぬ。

それは、要するところ、今度の革命運動が、十分の準備と統制とを缺ぎたることに歸するのである。即ち

（イ）今度の運動の口火となつた Jaca の反亂は、Galan 等が一味の協定に反し、流言を輕信して突如としてことを擧げたのである。この點に付いては、さきに Cutaro Vientos から、飛行機でポルトガルに亡命した Queipo 將軍も、その居住地に指定された Madra で同國の記者に對して、Galan の行動の不賢明であつたこと、彼が事を焦つて、信念なき分子をも糾合し、然も早急に事をあげたことを、明かに誹難してゐる。

（ロ）軍事的反亂の目標は、立憲制の回復にあるのは勿論であるが、その憲法の具體的な內容に付いて、運動指揮者の間にさへ一定した綱領が把握されてゐなかつた。運動が統制を缺ぐのは當然である。Madra の亡命者た

ちとポルトガル記者との會見記は、この點について次の如く語つてゐる。Queipo 將軍は、革命運動の目的が共和制と新しき憲法の制定にあることを語り、Rivera や Berenguer の獨裁が、政府から人材を追ふことを嘆じてゐるが、一方 Franco 少佐は、共和制を欲するや否やの問に對しては、それは何れにてもよきこと、要はたゞスペインをして生氣あらしめる憲法をと答へてゐるのである。

（ハ）今度の軍事的反亂が、農村地方に殆ど何等の連絡を有してゐないこと。

スペインに於ける『民主的運動』は、その經濟の基本的分析から明に察知し得る如く、廣汎な農民層を引入れることなしには、強力に強靱に展開されることはあり得ない。然も農民は、その慘憺たる窮境に對する不平不滿を、自然的に爆發させつゝある。たとへば去る六月中旬 Valencia, 西部の Valladolid 地方の農民は、小麥の最低價格の公定を求めて蜂起し、民兵との間に衝突を繰返した。でスペインの『民主的運動』が、一定の農業綱領を掲げて組織的に農村に働きかけるならば、農民層は、此の『民主的運動』に固く結びつけられるであらう。一定の農業綱領とは、『カツィーケ』の下にある『農奴』の非人間的待遇、高き小作料の減免、土地を有せざる農民の土地に對する渇望の處置等を意味する。

（ニ）都會地方は、軍事的反亂の浪に捲き込まれて、總罷業の勃發をみたが、猶兩者の間に緊密な連絡を缺い

でゐたこと。

（ホ）運動半ばにして、指導者の一部に離間を策するものの現れ來りしこと。

かくして十二月騒亂は一頓挫した。乍然、此の如き騒亂を生んだ社會的條件特に經濟的條件が止揚されざる限り、此の如き騒亂は又繰返されざるを得ぬ。政府も、此の形勢を察知して、或程度の政治機構の改造を以つて、此の如き騒亂を妨止せんとする意圖はある。十七日及び十九日の政府の召集した集會はこの意圖を示してゐる。でスペインの革命運動は、近き將來に於いて、少くとも此の意圖の限度の成果を克ち得るであらう。

此の意圖の限度とは、立憲政治の回復であり議會の再興である。そして多分今度現れる立憲制もまた立憲君主制であらう。何者、スペイン王アルフォンゾ十三世は、去る六月下旬、イギリス御訪問の途次、パリに、亡命中の前自由黨領袖 Santiago Alba を接見され給ふたが、その時王は、スペインのため、イギリスやベルギーの如き民主的な議會中心的な立憲君主制の設立と、その憲法改正のための議會の公正なる選擧を希望される旨明かに宣言し給ふたことが傳へられてゐる。イギリスやベルギーの如き立憲制が實現される限り、共和主義の人々も反對する根據を失ふであらうから。但スペインに於いて此の如き立憲君主制が實現されるといふことは、現下の『民主的運動』が終熄するといふことを、直ちに意味するものではない。それは、此の如き政治機構に於ける改革が

如何に經濟組織に反映されるかに、卽ちこの政府の政策に依つて、經濟組織に於ける著しい封建主義的矛盾が、如何なる程度に止揚されるかに係つてゐる。更に又此の『民主的運動』に伴つて行はれつゝある『社會的運動』の將來の進展については、其處には猶多くの中間段階があるであらう。それは、何よりも先づ此の『民主的進動』の成功の廣さと深さとに、そして又此の『民主的運動』が、既にその『民主的運動』を或程度に完成したイギリス、フランス等の諸國の『社會的運動』に如何なる影響を與へ、そしてそれが又スペイン自身に如何なる反響を與へるか等の條件に係つてゐるであらう。(完)

【追　記】

最近の外電は、Berenguer 政府の辭職と、スペイン王の Santiago Alba に對する次期內閣組織の御委囑と、Alba の辭退とを傳へてゐる。Alba は前述の國王との會見の際にも、普選が何等の干涉なく實行されるに至るまでは、首相の地位に就くを欲しない旨を洩してゐる。

(昭六、一一、一五)

【參考文獻】Die Wirtschaft des Auslandes, 1900—1927; Current History, (1930, 1—12)(一九三一年一月號未着にて、乍遺憾參照するを得なかつた。) K. Popow, G. L. Trilla の諸論文・諸外國新聞・年鑑類